

「いつも君のそばにいるよ」 千田父親クラブ“セnderバード”



千田父親クラブ「セnderバード」のメンバー。そろいのTシャツがカッコいい？

子どもを育む
おやじたち

広島市立千田小学校児童の父親でつくる「千田父親クラブ」（通称セnderバード、清水秀臣会長、78人）は昨年7月、同校で「大イベント」レスキューキャンプを開催しました。避難訓練や消火訓練、飯ごう炊き体験、体育館での宿泊訓練などに、児童や保護者など約300人が参加しました。「災害時に備え、一度は集団生活を経験しておいた方がいいだろう」。そんな思いで「昨年度から準備を進めてきました。また、前年のバーベキュー訓練で火の起こし方をマスターした父親たちの、練習成果を披露する場もありました。父親クラブの結成は平成15年（2003年）。「地域活動に父親がもっと参加しよう」と、同小OBでもある会長の清水さんらが中心になって立ち上げました。「お父さんがなかなか表に出てこない。このまま放つてはおけないと思いま

した」働き盛りのお父さんで構成する父親クラブは、社長、会社員、自営業、小・中・高大学の教職員、公務員など多彩なメンバーがそろっています。「何かやろうとすると、『それ任せて』と必ず何人かの手が挙がるんです。78人いれば、たいいていのはできます。私もいろいろ教えてもらいました」と清水さん。イベントのポスター作りは印刷会社経営者、料理は飲食業経験者、デザインはお好み焼き店の店主。本業とは関係のない、秘めた才能を発揮しているお父さんもいるようです。今年度の父親クラブの活動テーマは、「いつも君のそばにいるよ」。プール清掃、防火夜回り、親子サッカーなど、メンバーだけでなく、時には地域住民にも参加してもらって毎月いろいろな活動をしています。「コンビニに行った時でも、何かにつけて子どもの顔は見る



メンバーの福田誠さんがデザインしたレスキューキャンプのポスター

レスキューキャンプの様子。体育館で寝泊まりしました



ようにしています。常に目を光らせていれば安全にもつながるし、知った顔がいれば、子どもだつてなかなか悪い事はできないでしょう」（笑）。胸に「SENDER BIRDS」とプリントしたメンバーTシャツを着ていなくても、「セnderバードのおじちゃん」と呼ばれるようになったお父さんもいるそうです。



千田小のイベント「ゆめスコ」では、鳥の千載焼きを振る舞いました

働く親を応援!!

国内自動車メーカー初の社内保育施設 マツダ株式会社

マツダ（株）は平成14年（2002年）、国内自動車メーカーでは初めて、事業所内保育施設を開所しました。当時の反響は大きく、さまざまな業種の企業が視察に訪れました。

導入のきっかけには、女性社員が能力を最大限に発揮できる環境づくりを進める「ポジティブ・アクション」という社内での取り組みがありました。女性社員8人で構成するプロジェクトチームは、保育施設の必要性を訴え、その後実施した社内アンケートでも男女を問わず保育施設を望む声が多かったことが分かりました。

同社は、勤務時間を自由に設定できるフレックスタイム制度や短時間勤務制



体調がすぐれない子どもは、専用ルームで看護師さんが対応します

度を採用しており、就業形態が多様化しています。「土曜日・祝日に出勤することがあるマツダの就業カレンダー」と、一般の保育施設の開設日や時間が合わないのも開所理由の一つです」と、労政グループマネージャーの青木 郎さん。

保育施設とほぼ同時期にスタートした短時間勤務制度は、小学校低学年の子を持つ社員の支えになっていきます。学童保育は午後5時ごろまでのため、親の不在時間を埋めることができず、「保育施設のある未就学児よりも、小学校低学年の子どもを持つ親の方が心配が多いのでは」と青木さん。

独身寮2階の音楽室を改装した保育施設（約200平方メートル）には、定員30人に対し、看護師や調理師、保育士が常時7〜8人勤務しています。保育時間は午前7時30分から午後9時まで。社員の出勤日に合わせているので、土曜・祝日の出勤日も利用できます。緊急時に1日単位で預かる二時保育、軽度の風邪など体調不良時には看護師が対応しています。

95%が女性社員、仕事と育児両立へ 株式会社フェスタ

浴室を備えるフェスタの「わくわくキッズ」。社員（お母さん）には好評です



株式会社フェスタ
広島市中区三川町8-21
TEL082-254-6731（わくわくキッズ）

エステティックサロン経営や化粧品製造・販売などを手掛ける（株）フェスタは、グループ会社を含めておよそ1000人の社員を抱え、その95%が女性です。昭和58年（1983年）の設立から次第に会社規模は大きくなり、子どもを持つ社員が増えてきたのを受けて、平成4年（1992年）、オフィス近くに託児室「わくわくキッズ」を開設しました。

子どもを預けることができるようになりました。

子どもの定員は20人。スタッフは保育士や幼稚園・小学校教諭、看護師の資格を持つスペシャリストが8人。保育時間が午前8時半から午後11時までと長く、浴室を備えている点、社員に支持されています。また、社員以外の利用もできます。併せて、24時間体制でベビーシッターの派遣もしています。

以前、長女を預け、現在は二女を預けている同社営業推進部の石森美和課長は、「子どもがすぐになじめるアットホームな雰囲気がいいところです。それに、お風呂があるのは大きいですね。夏場は汗をかくし、夜、入浴してから家に連れて帰れば、すぐ寝かしつけることができます。また、同じビル内に、託児室があるというところが、何より安心して仕事にも集中できます」。



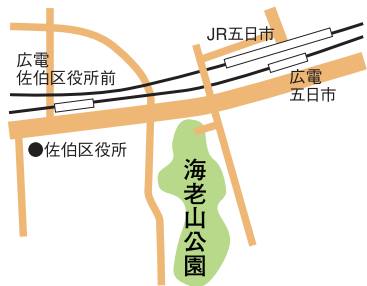
広島はつかいち大橋から見た海老山



「育む会」では昨年11月、春に向けたチューリップと冬を彩るハボタンを植えました

ひろしま ぐると八区

広島には魅力あふれる地域や元気いっぱいの人たちが数多く存在します。
このコーナーでは、そんな“広島のステキ”を皆さんにお届けしていきます！



「佐伯区民の森」を目指して

桜の名所として広く知られる海老山ですが、治安が悪く人が寄りつきにくい場所だった時期もありました。荒れてしまった海老山を、区民の手によつて再生しようと、平成10年（1998年）度から佐伯区役所主催で「海老山ふれあいまちづくり楽校」がスタート。以来、区民らが自主的にいくつかのグループを結成し、海老山を憩いの場にしようという活動を続けています。

「海老山を育む会」は、「海老山ふれあいまちづくり楽校」のワークシヨッ

区民の森を甦らせよう

海老山公園

五日市駅から5分ほど歩くと、静かな住宅街の中に「海老山公園」の入り口を見つけることができます。高さは53.7メートルで、山頂からの見晴らしは素晴らしいと評判です。人形を横にしたようなその形は、子どもたちに「キューピー山」と呼ばれて親しまれてきました。

佐伯区

海老山全体を表した園内掲示板



海老山の良さを区民に伝えていきたい」という思いが原動力です。海老山の貴重な自然が荒らされないよう、毎週整備活動を行っています。

活動を行っている海老山の入り口付近には、人々があつと驚くしかけが。一見ふつうの花壇ですが、少し高い位置から見下ろすと、植物によって西暦と干支の動物が形作られています。毎年、『海老山を育む会』のメンバーが設計図を書きハボタンなどを植えて、目にも楽しい「特大カレンダー」を作り上げています。

未来を担う子どもたち

毎月第2土曜日には、『海老山と遊ぼう会』の活動が行われています。『育む会』と同じワークシヨップからスタートした『遊ぼう会』は、子どもたちが目いっぱい海老山で遊べるようサポートすることを目的としたグループ。まちづくりボランティア「屋根裏の会」や、広島工業大学の学生たちと一緒に活動を開始しました。

『遊ぼう会』代表を務める多田哲

TOPICS

「海老山を育む会」は第1・3土曜日の午前9時、「海老山と遊ぼう会」は第2土曜日の午前10時30分から活動を行っています。
問合せ
「海老山を育む会」
☎082・922・2430（藤田さん）
「海老山と遊ぼう会」
☎082・922・2685（多田さん）



観光客の絶えない広島東照宮



東区

歴史の案内人を目指して

二葉の里 歴史の散歩道

広島市唯一の国宝である不動院金堂をはじめ、重要文化財に指定された建造物などが多数集積している「二葉の里歴史の散歩道」。その美しい景観は、時代を超えて市民の心の支えとなってきました。

広島のに至宝・二葉の里

牛田新町の不動院・矢賀駅の間に位置する神社・仏閣を結ぶ道「二葉の里歴史の散歩道」。古くは約千年前の文化財（不動院梵鐘）から新しくは二葉山平和塔まで、広島市の歴史を伝える重要な史跡が並び、二葉山の景観とともに深く愛されています。

昨年11月27日、この二葉の里の魅力を伝えようと、『二葉の里歴史の散歩道巡り』が開催されました。〈饒津神社→明星院→鶴羽根神社→広島東照宮→尾長天満宮→國前寺→聖光寺→我羅我羅橋→才蔵寺〉という東側のルートを、二葉の里に詳しいガイドさんたちと一緒に歩いて回りました。8回目となる今回は、宮司さんと住職さんの説明に加え、『二葉の里歴史の

散歩道ボランティアガイド養成講座」で学んでいる受講生も説明を担当。ボランティアガイドとしての一歩を踏み出しました。

を担当した小谷静子さんは、本番前日にも鶴羽根神社を訪れて予習したそうです。昔懐かしいわらべうたなども披露し、より楽しいガイド内容を心掛けました。「境内の奥に日ごろは見られない唐獅子があります」など、ガイドブックには載っていない解説も。猛勉強のかいあって、ガイド終了後に参加者から盛大な拍手が贈られました。

魅力的な歴史の案内人

当日、100人あまりの参加者が早朝9時、続々と饒津神社に集合しました。まずは広島大学大学院生の山田岳晴（たけはる）さんが、向唐門（饒津神社の入口）の古建築の様式などについて説明。参加者たちは、各自メモを取りながら真剣に聞き入っていました。



原爆の被害から復興された鶴羽根神社の歴史などをガイドする小谷さん

TOPICS

「二葉の里歴史の散歩道」の魅力を伝える写真展が、東区内の公民館などで巡回展示されます。まちづくり市民交流プラザでは、3月初旬に展示する予定です。
☎082・568・7705
（東区市民部市政振興課）



二葉の里歴史の散歩道散策マップ

「遊ぼう会」メンバーと自由に遊ぶ子どもたち



クリや果物…いろんな物を使って飾り炭焼きに挑戦

仁保小学校、黄金山小学校などの3年生～6年生40人が、山や川での自然体験、宿泊研修（キャンプ）などを通して、自主性・協調性・社会性を培っています。子どもたちの挑戦を支えるのは16人のボランティアたち。その中には地球探検クラブを卒業したジュニアスタッフ、子どもの教育に関心がある大学生の姿も見られます。

仁保子ども地球探検クラブ



飾り炭焼きが上手にできました



パネルシアターの練習中。公民館まつりで披露しました



図書ボランティアグループフレンドブック

図書室の本を整理したり、参加自由のオープンスペース「親子ブレイクム」や公民館まつりなどで読み聞かせをしている図書ボランティアグループです。平成11年（1999年）に発足し、現在は4人で活動しています。メンバーの中には学校の司書もいます。

以前、仁保公民館の図書室は印刷機が置かれ、本が乱雑に並べてありました。そんな状態を改善しようと、公民館が印刷機をパーテーションで囲む工事を行い、さらにメンバーの意見を取り入れ、入りやすいようにドアを透明ガラスに替えました。お勧め本は、表紙が見えるように立てて置くなどの工夫をしています。



フレンドブック通信

次世代を担う子どものために 仁保公民館（南区）

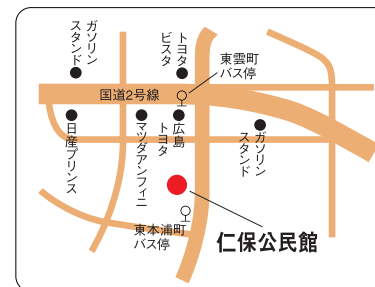
昭和56年（1981年）に市内29番目の公民館として開館。黄金山の北部のすそ野に広がる仁保・黄金山地区で、生涯学習の中枢的な役割を担ってきました。仁保地区には子どもを持つ家庭が多いため、乳幼児の親や小・中学生を対象とした事業を実施し、次世代を担う子どもたちの育成に力を入れています。



お勧めの本を目立つように工夫

ます。その甲斐あって、貸し出し数は5年間で2倍になりました。

平成12年（2000年）からは情報紙「フレンドブック通信」を年4回発行して、市内の各公民館と南区の小学校に配布しています。大人向け・子ども向けのお勧め本を、あらすじとともに紹介。そのために、メンバーはたくさんのお手本となつています。



仁保公民館
広島市南区仁保新町1-8-6
TEL&FAX (082) 281-1831
Email: niho-k@hitomachi.city.hiroshima.jp

こども囲碁教室

囲碁は3000年の歴史を持ち、大人から子どもまで楽しめます。そんな囲碁に幼いころから親しんでもらおうと、第2・4土曜日に小学生を対象にした教室を開いています。4年前の夏

子どもたちに最も人気があるのが、宿泊研修。今年度はもみのき森林公園に行きました。仁保小5年生の草加美季ちゃんは「みんなとすぐに仲良くなれたよ。違う学校の友達ができうれしい」と、2年続けて参加しています。

また毎年、公民館の畑で野菜を栽培しています。今年度はサツマイモを作りました。クラブ卒業時には、翌年のメンバーのために畑を耕します。

うるわしのラヂオデイズ

生活資料館「仁保島村」の企画で、ラジオに関する貴重な資料、珍しい機器の巡回展示をしています。放送と視聴者活動の歴史を紹介し、小・中・高校生を対象とした鉱石ラジオ作り教室を実施します。入場無料（ただし、鉱石ラジオ作り教室は実費が必要）。



開催期間	会場(問合せ先)
1/21(金)～30日(日)	仁保公民館 281-1831
2/4(金)～13日(日)	吉島公民館 246-4121
2/18(金)～27日(日)	高陽公民館 828-0753
3/4(金)～13日(日)	青崎公民館 281-3802
3/18(金)～27日(日)	安公民館 872-4495

鉱石ラジオ作り教室は開催期間内の土曜日に開講。詳細は各公民館へお訪ねください。4～6月は古田公民館、船越公民館、皆賀公民館、早稲田公民館の巡回展示を予定しています。

休みに開いた「子ども囲碁大会」が盛況だったため、その翌年から教室をスタート。卒業生の中には県大会に進んだ子どももいます。指導するのはボランティアの中野武さん、高橋利彦さん、久保甚さん。子どもたちが親しみやすいように、マンガを使って説明したテキストやテレビの囲碁番組を教材として取り入れています。

対局すればするほど強くなれる囲碁の面白さとともに、「休まない・遅れない・継続する」という基本的な姿勢も身に付けてもらいたいと、開講時から子どもたちを見守っている中野さん。指導者の熱い思いが教室を支えています。



高橋さんの指導のもと、対局する子どもたち



サッカーボールで遊ぶ子ども



ピアノカの演奏で訪問団を出迎えました

レポートの“P”は、Philanthropy（フィランソ
ロピー・企業などが地域活動に参加すること）、
Peace（ピース・広島のアイデンティティーとし
ての平和）、Public（パブリック・公共に開かれ
ている）などの“P”をイメージしています。

ひろしまの会社のおもしろ Pレポート REPORT

あなたの知らないところで、社会貢献活動を行っている広島の企業はたくさんあります。このコーナーでは、そんな企業の取り組みをご紹介します。さて、今回はどんな企業が登場するのでしょうか？

カンボジアの小学校再建を支援 株式会社ウエスト

澄んだ目の子どもたち

「子どもたちの目が違います。澄んで、輝いていました」と振り返るのは、昨年10月にカンボジアのチャンバック小学校（現在の名称はカンボジア・日本友好小学校）を訪ねた、ウエスト常勤監査役の木村克彦さん（63）。同社がこの地を訪問するようになってから、今年で4年目になります。昨年の訪問団は、同社の協力企業も加わって総勢34人。本社がある西区楠木町の町内会からも希望者を募り、10人を招待しました。
首都プノンペンからバスで3時間の距

離にあるコンボンスプー州に、目指す小学校がありました。サッカーボールや文房具を持参した二行を、子どもたちは大歓迎。口々に「こんにちは」と日本語であいさつしました。以前、同社が寄贈したピアノカで演奏を披露しながら出迎えてくれました。「寄贈品を一人ひとりに手渡す際、みんな、じつと自分の番を待ち、受け取る前には手を合わせて……とても礼儀正しいんですよ」と木村さんは感心しました。
同社のカンボジア支援は、6年前にさかのぼります。吉川隆社長は岡山県出身。自身のふるさとに本部を置



日本からの訪問団を歓迎する児童。
背後の建物は新しくなった小学校校舎

資金として分配しています。APAHの事務局はウエストにあります。
活動支援は寄付金だけではありません。平成14年（2002年）7月には、フランスからロシア人ピアノリスト、セルゲイ・マルカロフ氏を招き、中区上戦町のエリザベト音楽大学でリサイタルを開催。収益の一部を活動資金に充てました。

資金として分配しています。APAHの事務局はウエストにあります。
活動支援は寄付金だけではありません。平成14年（2002年）7月には、フランスからロシア人ピアノリスト、セルゲイ・マルカロフ氏を招き、中区上戦町のエリザベト音楽大学でリサイタルを開催。収益の一部を活動資金に充てました。

資金として分配しています。APAHの事務局はウエストにあります。
活動支援は寄付金だけではありません。平成14年（2002年）7月には、フランスからロシア人ピアノリスト、セルゲイ・マルカロフ氏を招き、中区上戦町のエリザベト音楽大学でリサイタルを開催。収益の一部を活動資金に充てました。

資金として分配しています。APAHの事務局はウエストにあります。
活動支援は寄付金だけではありません。平成14年（2002年）7月には、フランスからロシア人ピアノリスト、セルゲイ・マルカロフ氏を招き、中区上戦町のエリザベト音楽大学でリサイタルを開催。収益の一部を活動資金に充てました。

市民ボランティアを支援

広島市では平成6年（1994年）の第12回アジア競技大会を機に、300以上の市民ボランティア団体が、アジア諸国を対象に、教育・医療・福祉分野にわたって支援活動を始めました。しかし、多くの団体が活動資金不足に悩んでいる状況を受けて、平岡敬前広島市長が発起人となつて平成14年（2002年）5月、地元の経済人が、支援組織「アジア・フュニックス・アクション・イン・ヒロシマ」（APAH、徳永幸雄会長）を発足させました。会員企業から寄付を募り、市内のボランティア団体に活動

アムダとは

岡山県に本部を置く国際医療ボランティア団体で、設立は昭和59年（1984年）。アムダは、The Association of Medical Doctors of Asiaの頭文字から。アジア、アフリカ、中南米の開発途上国と言われる国々において、紛争や自然災害、貧困などに苦しむ人々への医療救援、生活状態改善のための支援を行っています。平成13年（2001年）に、特定非営利活動法人となっています。アムダ高校生会は、平成7年（1995年）の秋に発足した高校生のボランティアグループです。現在は、約20人の高校生が活動しています。

国際貢献カードの発行

使うだけで国際ボランティアにつな

く国際医療ボランティア団体、特定非営利活動法人アムダの高校生会メンバーが、チャンバック小学校再建のために街頭募金活動をしている話を聞いたのがきっかけでした。吉川社長はさっそくアムダのメンバーとともに現地を視察。医療だけでなく、下水道など、まだまだ整備が必要などころがたくさんありました。そこで「私たちにできることはないか」と考えた結果が、すっかり古びてしまった小学校の再建でした。「社長をはじめ、われわれの世代には戦後の幼少期とダブって見えるんですよ」と木村さん。現地の状況を見て、放つてはおけなかったようです。
実際に施工したのは現地の職人ですが、アルバイトで旅行費用を賄い、建設作業を手伝いに行ったアムダの高校生会メンバーもいたそうです。同社は、建設にかかる資金はもちろん、教師の人件費など再建後の運営費も、継続して支援しています。
平成13年（2001年）3月に完成した新しい校舎は、鉄筋コンクリート

がるクレジットカード「ウエスト国際貢献カード」も発行しました。カードを使うと、発行会社のウエストに手数料が入ります。この手数料の一部を、アムダと、国際ボランティア団体「セーブ・ザ・チルドレン」の活動資金に役立てています。社員406人を含め、会員は約3000人です。



ウエスト国際貢献カード

公園清掃13年

一番長く続けている社会貢献活動は、本社の目の前にある横川第二公園の清掃活動です。平成3年（1991年）に本社ビルを建てたのを機にスタートしました。毎週水曜日の午前8時半から、約100人の社員が一緒に公園に出て、ごみを拾い集めます。広島中央警察署から感謝状を受けるなど、これまで3度も表彰されました。周りから感謝される喜びが原点となり、現在のアムダ支援などの社会貢献活動につながっているそうです。



毎週水曜日は、社員総出で公園を清掃します